

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年度目)

1. 研究課題

(和文) 啓蒙とフランス革命・I—1793年の研究

(英文) The Enlightenment and the French Revolution :I. A Study of the Year 1793

2. 研究代表者

(氏名) 富永 茂樹

3. 研究期間

平成22年4月から平成25年3月まで

4. 研究目的 (400字程度)

18世紀のヨーロッパで成長をつづけたいわゆる「啓蒙哲学」は、世紀の終わりにいたりひとつの大きな転機を迎える。すなわちフランス革命であり、ここには啓蒙思想が革命の思想へと転化すると同時に、革命の進展が啓蒙の観念を変形させてゆく過程を見て取ることができるであろう。本研究は桑原武夫教授が戦後間もなくに始めた『ルソー研究』や『フランス革命の研究』以来の当研究所における共同研究の成果を踏まえたうえで、あらためてフランス革命期、とりわけその絶頂期ともいえる1793 - 94年のモンターニュ派独裁期に目を向けることにより、ある観念を現実の政治=社会のコンテクストのなかに位置づけるとともに、他方で政治的なるものを意識=文化とのかかわりをとおして理解することを目的としている。そうした目的に到達するために、まずは当時のテキスト（ロベスピエール、サン=ジユストなど）を読み解く、そこからいくつかの問題を発見することが試みられる。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

本年度は合計して18回の研究会を開き、前期にはロベスピエール「革命政府の諸原理について」(共和国2年ニヴォーズ5日)やサン=ジユスト「投獄された者たちについての報告」(共和国2年ヴァントーズ8日)などのディスクールの会読を行い、後期にはこれまでの会読の成果にもとづいた各班員の研究報告(橋本「《修正派》以後のフランス革命研究の動向について」、佐藤「ルソー・の・名」、川村「恐怖政治の政治演説に見られる自然科学のアナロジー」など)、および恐怖政治期を主題とする最近の欧米での研究(K. M. Baker (ed), The French Revolution and the Creation of Modern Political Culture, vol. 4 : The Terreurなど)の紹介を行い、またあわせて下記7に示す公開講演会を開催した。

6. 研究成果の概要 (400字程度)

1793年から94年にかけて国民公会においてなされた演説の数の膨大さとくらべるなら、研究会の会読で採りあげたテキストの数はごく限られたものであったことは否定できない。このことは、しかしながら会読がそれぞれのテキストにおける表現を一字一句にわたって検討したこと、また内容(言表されたこと)について詳細かつ広い観点からの解釈を戸なったことに起因している。これらの議論をとおして、当時の内・外の戦争、経済的危機などにかかわ

る一種の「例外状況」の認識、そのような状況への革命家たちの対応のかたち、言語と行動に両面にわたる「暴力」の様態など、いくつもの問題が明らかになり、18世紀の啓蒙思想がフランス革命期にどのように受け止められ、さらに政治的実践のなかで変貌していったのかを理解する重要な手がかりを得ることができた。また、最近の文献の紹介や、フランス人研究者の来日の機会をとらえて行った講演会は、啓蒙と革命にかかわる新たな知見と視野を獲得するよい機会となった。

7. 共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

4月13日：ベルトラン・ビノシュ公開講演会

フランス革命期における「公論」概念の動揺

10月23日：パトリス・ゲニフェー公開講演会

フランス革命期における恐怖と暴力

1月25日：ベルナル・ベルナルディ公開講演会

ルソー的形象の残存—ジャン・ドブリによる公論・習俗・監察論

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区 分	機関数	受入人数			延べ人数		
		外国人	大学院生	外国人	大学院生		
学内（法人内）	5	14	3	3	190	9	50
国立大学	4	6	0	2	75	0	1
公立大学	1	1	0	0	16	0	0
私立大学	3	3	0	0	36	0	0
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0
民間機関	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	3	3	3	0	0	3	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
計	16	27	6	5	317	12	51

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

(例) ・1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数
2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

(参加研究者がファーストオーサーであるものを対象)

論文数	3	
うち国際学術誌に掲載された論文数	(2)	(0)

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記載。

役割		
論文数		
うち国際学術誌に掲載された論文数	()	()

※下段の () 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載。

※ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なものを以下に記載。

※ 拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由		主なもの	
掲載雑誌名	掲載論文数	論文名	発表者名